

International symposium of “The 70th Anniversary of Mongolian Paleontological Expedition of Academy of Sciences, USSR” 参加報告

生物地球研究科修士1年 浅井 瞳

2016年9月22日、私はモンゴルの首都、ウランバートルで開催された国際古生物学会にポスター発表で参加しました。日本人は私と私の先生の実吉講師と同ゼミ室のゼミ生1人、そして同じく生物地球学科の石垣教授の4人だけである。他の参加者はモンゴル、ロシア、アメリカ、ドイツ、ポーランドなど、様々な国の人たちが総勢70人ほど集まっていた。開会式の挨拶が終わり、いろんな人たちが謝辞を述べたりプレゼントをしたり、冗談を言ったりと和気藹々とした雰囲気ではじめた。午前中は12人がオーラルで発表していたが英語が早すぎて分からないところがたくさんあり、そのつど実吉講師に通訳していただいた。発表中は緊張感というよりは、みんな興味津々という雰囲気であった。昼休憩を挟んでポスター発表の時間がやってきた。緊張しながら興味を持っていただいた多国籍、多分野の研究者の方々に英語でポスターの説明をした。私は英語が上手ではないので、たどたどしい英語とジェスチャーとで四苦八苦説明した。一生懸命説明したが、ほとんど伝わらなかったという感触であった。その後閉会式があり、学会は終了した。せっかく興味を持って聞きに来てくださったのにたどたどしい英語でしか説明できなかったことに悔しい気持ちと、申し訳ない気持ちでいっぱいだった。今回の学会を通して私は様々な分野の人たちと関わることで視野が広まり、これからの自分の課題も見つかり、とても実りの多い学会発表になりました。

